



地域清掃と募金活動を終えて ～ 社会貢献を考える～

今年も早いもので募金と餅つき大会の時期となりました。今回は地域清掃活動をこの日に合わせ、一日を通じて団の結束を高めるねらいも兼ね、早朝からの活動となりました。

先ず地域清掃活動については、例年になくタバコの吸殻と空き箱の多さに愕然としたのは私だけだったでしょうか？小中学生(高校生も)がタバコを吸う訳はなく、その落とし主は我々大人です。最近では駅構内や会社での禁煙も増加したため、改札を出て帰路で一服したい気持ちなのでしょう。3班に分かれて三田第4公園から生田駅バスロータリーまで清掃を行いましたら、駅からのルート沿いに点在していました。どうすればなくなるものか...私がスカウトの頃はこんなに多くはなかったかと。決してタバコを否定している訳ではありませんが、マナーは守りたいものです。



途中の公園では、カブやボーイのスカウトが手分けして弁当ガラやレジの袋、ペットボトルや缶、ピンを拾い集めました。案の定、たくさんのゴミ袋が山となりました。

大人はついつい、何で自分が拾うのか、お店の前では店側はなぜ綺麗にしないのかと思ってしまうがちになりますが、ゴミを無心で拾うスカウトの真面目な姿から、真心をこめて自分のつとめを果たす、社会の中でともに生活を送っているそのありがたみなど、「おきて」の実践そのものだとつくづく感じた次第です。『スカウトは指導者の背中を見て育つ』と言われる。スカウトがいない時こそ、勇気をもって正しく行動できるかが、指導者として欠かすことができないつとめだと思われました。



募金活動

清掃終了後は、6箇所(登戸、向ヶ丘遊園(南北)、生田(南北)、読売ランド前)に分かれての募金活動を

実施し、51,481円もの募金が集まりました。金額ではなく子供達が「年末助け合い共同募金をよろしくお願ひします」と呼びかけ、「ありがとうございました」と応えることにこの活動の意義があるのです。特に今年は北風が吹く中、6箇所のほとんどが日陰であったため、余計に寒さを感じたはずですが、寒い中でも制服姿で立ち、社会の方が私達に募金を託してくれる、時折、スカウトに励ましの言葉をかけて下さる方に会い、ボーイスカウト運動がさらに社会に貢献し、信頼の向上に励まねばと感じました。意外にも若い20代や30代の方が募金をして、中には成城学園前でボーイスカウトをしていると大きな声で挨拶をして、よみうりランドの遊園地?に遊びに行った仲間に遭遇しました。今の若いものは...との思いになってしまいますが、若い世代のスカウトに刺激を受けた日でもありました。



一方では、小田急電鉄の理解に苦慮する年でもありました。6箇所を統括する登戸駅長に事前に活動主旨を伝えお願ひに言ったところ、許可が必要なため文書の提出を求められる事態となりました。詳しくは省きますが、北部団(53団や43団など)との兼ね合いもあり、次年度に向けて川崎地区とも相談しながら、事務的に手続きを進めていく方向になりました。昔であれば、活動前後に駅員に挨拶して実施できたものが、企業の社会貢献が当たり前のような時代になったにもかかわらず、ボーイスカウトでさえも正式な手続きをしなければならぬものかと、残念な気持ちに駆られました。

営利を目的とせず、恵まれない子供やお年寄りのための募金活動であっても社会の理解を得ていく事に努力が不可欠なのでしょう。ボーイスカウトだから募金をして下さる...その期待に応えていく姿勢を指導者としては実践していきたいものです。

今月28日の午前、川崎区の団(3・21・30団)に所属する代表スカウトが、阿部孝夫川崎市長に川崎地区全21個団で集めた募金を寄贈します。

餅つき大会

さて、この日のプログラムの目玉でもある「餅つき大会」～最近是好天に恵まれています。降雨の場合も想定し、実行委員会で雨天対策も検討していました。

ボーイスカウトのスローガンは、「そなえよつねに」です。“常に備えよ”が安全対策にもつながるのです。誰も冬期の雨は、寒くなり気持ちがダウンしかねない状態になりがちですが、今年の46バザールは午前中が冷たい雨の中で実行した経験がありますので、常に備えておく事で心にもゆとりが生まれるものだと思います。

今回の餅つきは、東三田の旧松下技研跡地に建設されたマンション住民にも声をかけ、ボーイスカウトの活動の一部に触れてもらう試みを実行しました。ビーバーよりも小さなお子さん連れの親子の参加が見受けられ、近い将来には一緒に活動を行っていることを願って止みません。何せ、現状、ビーバーは3名、カブは13名です。数年後にはカブ隊が10名を下回る事態にもなりかねない危機的な状況なのです。カブ隊の標準は24名(つまり6名×4組)と言われ、ここ数年は2組編成がやっとできる状況です。隊でゲームをするにしても2組対抗よりも3組や4組の方が、教育効果は高まるのは言うまでもありません。皆さんの近くに同年代のお子さんがいらっしゃいましたら、ぜひ声をかけて見学に来よう誘って下さい。よろしくお願いいたします。



朝から餅つきの準備をされたお母さんやお父さんがたくさんいらっしゃいました。今年も柔らかいお餅6つをお腹に入れ、かつ、名物のトン汁を御馳走になりお腹一杯になりました。かまどに薪をくべ、お皿とお椀を洗っているベンチャースカウトの姿も目に留まりましたでしょうか？前日の餅米研ぎから始まり、餅を口に頬張るまで様々な人手があつてのことです。改めて感謝申し上げたいと思います。

BVS 合同クリスマス会
～感謝の気持ちを原点に～

前日まで冬らしい寒い日が続いていましたから、室内での活動の有難みを皆さんはどのように感じましたか？

全家庭の父母の参加を頂きましてありがとうございます

ました。我が子の姿を見たいと足を運んで下さった皆様の思いは、私達隊指導者にとっては、充実した活動の期待と信頼だと思っています。信頼の源は誠実ですので、安全にも配慮しながら、これからもスカウトにとって魅力ある活動を提供していきたいと思います。

まず、ホットドッグランチは炒めた千切りキャベツが挟まって、一手間かけた心使いを感じながら美味しく頂きました。また、ケーキもお母さん方の知恵と工夫が結



晶して、見た目の華やかさと甘さ控えの sponsing がちょうどよいハーモニーとなり、完食しました。事前の買出し・準備

から片付けまで、ありがとうございました。また差入れを頂きまして、この場をお借り御礼申し上げます。

さて、今年は、隊として新たな視点を取り入れました。それはスカウトに、隊長・組のみんな・隊のみんな・親・リーダーのいずれかを選択して感謝の手紙を書き発表する試みでした。リーダーが想定していた以上に、一人ひとりが、自分以外の人に対して気持ちを込めたメッセージを発信したことに驚きと感慨深い時間となりました。これからも皆と仲良くしたい、仲間と協力してよい組にしたい、世界ジャンボリーに行きたい、組長として下級スカウトに対する感謝の言葉等々、全てを紹介できませんが、父母やリーダー、そしてスカウトの心に響いたものと思います。



最初は一人1分でも緊張するものと思っていましたが、意外にも堂々として、さらに素直な態度で大勢の前で話す活動を通じて、一步成長した姿が見られました。うさぎスカウトは3ヶ月で、大きく成長しました。まだまだ落ち着きがなく、じっと我慢することができない特性を持った年代です。しかスカウト、そしてくまスカウトに進級していく過程で、波の如く成長していきます。しかやくまスカウトは先輩としての自覚も芽生えています。スカウトの成長する姿を間近で見られるのは隊指導者みょう利に尽きます。

一方、毎年楽しみなスタンプは、効果音から被り物、

甘そうな柿に至るまで見事でした。もちろん、セリフやナレーションは欠かせないのですが、事前準備の組集会から、一人ひとりが自分の役割を演じ、組活動の集大成として発表することにスタッツのねらい（隊集会の目標）があります。風邪と習い事で欠席した2名のスカウトの分まで、妹やお母さんも飛び入り参加し、場を盛り上げ、普段見せない意外な面もあるなあって感じたDLやお母さんの演技に感動と拍手でした。



2組『3びきの子ぶたと7ひきのリーダー』



1組『サルかに合戦 鳥バージョン』

そして、ビーバーの『アブラハムは7人の子』は、サンタの衣装で登場し、歌と踊りの中にも一生懸命に演技する力強さと可愛らしさが光っていました。隊長や副長

の笑顔も素敵でしたね。



『アブラハムは7人の子』

リーダースタッツは、『アンノウン・ソルジャー（無名のスカウト戦士）』。名も知れぬ兵士の善行の話として、今でも伝えられており、「こどもの国」に記念碑が建てられてい

ます。スケート訓練の際に見に行く導入とし



て今回のスタッツの題材としました。昨年の名も知れぬスカウトの善行の話、『アンノウンスカウト』とともに、その精神は今でも広く知れ渡っています。



来月のスケート訓練で訪問します

年明けには発団40周年の記念イベントの幕開けとなる46バザール、4月の団ラリー、式典・パーティ、締め括りの団キャンプと続きます。スカウトに将来の思い出となるようなプログラムを提供できるようリーダー一同、一生懸命頑張りますので、今後とも御理解と御協力をよろしくお願いします。

今年も残り僅かとなりました。カブ通信の定期発行を定着させるべく、毎回の集会がとても楽しみです。

来年は40年の歴史と重みを感じながら、楽しいスカウティングにしたいと思っています。